

今も、全国に「安らぎの音楽」を…。

立川 叔勇さん
(東所沢在住)

皆さんは「リュート」といふ楽器を知っていますか。「古楽器」の1つで、16世紀から、西洋で愛されてきた弦楽器です。その歴史が途絶えてしまっていた楽器が、立川さんによって復活しました。

立川さんは、1977年の年、独学で演奏法を習得し、昔の楽器の復元まで手がけています。復元は、スペインなどの図書館で当時の楽譜を探し、解説することから始まります。音楽の輪郭をつかみ、楽器の材質を考え、絵から楽器のイメージを想像し、技術がある職人に製作を頼みます。

「昔の音」に近づけるまでには、難し〜、出来上がるまでかなりの時間を要しますが、立川さんは、創造するおもしろさを若い人にも経験して欲しいと願っています。

野老っ子



▲小鳥のさえずりの中、手作りの図鑑を手に自然観察をする受講者の皆さん。「植物画講座」。5月9日(金)いきものふれあいの里センター



演奏の様子

「リュートの音色は、暖かみを感じ、人々の心がやわらぐ。演奏を聴いた皆さんが、穏やかな気持ちになられるのがうれしいです。」と立川さん。

市内での演奏経験もあり、これからも続けていきたいと語る立川さんは、所沢に30年以上住んでいます。「緑が多い街。安らぎを感じ、夏に入ります。この暑気を取りたいです。」と立川さん。

「リュート」の魅力を、市内での演奏経験もあり、これからも続けていきたいと語る立川さんは、所沢に30年以上住んでいます。「緑が多い街。安らぎを感じ、夏に入ります。この暑気を取りたいです。」と立川さん。

みんなのひろば

TOKOROZAWA 38 ものしりウォーキング

中富・江戸時代の貸本

中富民俗資料館には、富岡地区で使われてきた農具や生活用具が数多く展示されています。ほとんどは明治・大正・昭和時代のものですが、江戸時代のものも少なくありません。

それらの展示資料の中に江戸時代の貸本があります。この貸本は三富に「本屋」と呼ばれた家があり、その家で貸し出した書籍や写本です。本が高価で貴重であった当時は、こうした貸本によって読書を楽しんだり、知識を得たりしていたのでした。



貸本の真鍮三代表紙



中富民俗資料館 展示室

『真田三代実記』の表紙の裏側には、「この本は誤写が多いので貸し出し料(原文には「見料」とあります)は定めていません。謝金はお心付けで結構です。最後まで拝読して読んでいただければ金百疋を(以下欠損)」と書かれています。最後の部分が欠けていて判読できないのは残念ですが、面白い記述ではないでしょうか。裏表紙には「本松」という蔵書印が押されています。

また、『参考源平盛衰記』には「川越下富横山」と「武州上富本松」の蔵書印(丸印)が押されており、下富に横山、上富に本松という本屋があって、そこで写本などを貸し出していたことがわかります。

三富新田開発を行った川越藩主柳沢吉保は好書の人で、一説によると、開発で村へ入った人々に、教学のために書籍を用意して貸し出したとも伝えられています。農業経営もおぼつかない当時に、そのような余裕があったかどうかは疑問いかもしれません。しかし、このような貸本が残っていることは、庶民の間に読書の習慣が高まってきたことを示すものと言えます。

中富民俗資料館は、毎月第1・第4日曜日と第2・第3金曜日に開館しています。三富の田園風景を散策しながら、ふらりと訪ねてみてはいかがでしょうか。

「リュートの音色は暖かみを感じ、人々の心がやわらぐ。演奏を聴いた皆さんが、穏やかな気持ちになられるのがうれしいです。」と立川さん。

市内での演奏経験もあり、これからも続けていきたいと語る立川さんは、所沢に30年以上住んでいます。「緑が多い街。安らぎを感じ、夏に入ります。この暑気を取りたいです。」と立川さん。

街かど スムイン



▲ミニSLをはじめ、たくさんのイベントに大人も子どもも楽しんだ「ところざわ・旬の市」。5月10日(土)〜11日(日)/西武鉄道所沢車両工場跡地

▶皆さんからの「街かどスムーズイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「ダイエット」▶うとうとし梅雨のあとは待ち遠しい夏▶でも、気になるのが体型▶理想の体型を目指して一喜一憂ありますよ▶皆さんや周りの人の「ダイエット」にまつわるエピソードをお寄せください▶締め切りは6月13日(金)必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先: 〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなのひろば」係

「エコ回」不用品ガイド

- 譲ります ▶ランドセル▶はた織機▶自転車(18インチ)▶シューズボックス▶ジャングルジム▶電子オルガン▶パイプベッド(シングル)▶冷蔵庫(小型)▶扇風機
 - 求めます ▶BS用アンテナ▶自転車▶スクーター(50cc)▶スチール棚▶クーハン(乳児を運ぶかご)▶ベビーハウス▶スチール物置
- 受付方法 電話による先着順で紹介いたします。
休館日 月曜日、祝休日
申し込み・問い合わせ リサイクルふれあい館
(☎994-5374・FAX994-1118)
◎6月17日(火)に再生家具の抽選会を開催します。ご希望の方はリサイクルふれあい館へお越しください。なお、7月以降も抽選会を行います。



▲さあ、どこにも負けない日本一おいしい狭山茶の摘み取り開始です。「ところざわ新茶まつり」。4月25日(金)/航空公園駅前茶園

町内会めぐり

【松井地区・下安松町内会】 ～親子のふれあいを大切に～



柳瀬川の清掃の様子

昭和47年に発足した下安松町内会は、市内の東部に位置し、南側は柳瀬川沿いに清瀬市に接しています。現在1,300世帯あまりが町内会に加入し、多くの住民が西武線の秋津駅、清瀬駅などを通勤・通学に利用しています。

昭和30年代までは、柳瀬川沿いに田んぼが多く、春はカタクリの花が咲き、新田川久保付近では、夏に螢が飛び交い、柳瀬川では地元の小学生が水遊びできるほど恵まれた環境でした。

その後、宅地開発が進み住民が増えるにつれ、愛宕山、和田、松郷の各地区に新しい町内会が生まれました。

人が増える一方、親子で遊べる場所が減ってきたため、親子で参加できるハイキングなどの行事を計画し、大勢で盛り上がりました。

最近では、毎年、親子史跡巡りを開催しています。昨年は、117人もの参

加者が日本一の恵比寿様と陶芸の里で有名な益子を訪ね、楽しく和やかな1日を過ごしてきました。

7月には、親子一緒に農家でのじゃがいも堀り、リサイクルを兼ね学校でも使用できるよう、一斗缶を利用したごみ取りや竹ぼうきの作り方を、お年寄りから教えてもらう予定です。

今後も、柳瀬川の清掃をはじめとして、人のつながりやコミュニケーションを大切に、会員になった誰もが「ふるさと」と思えるような町内会を目指して、活動を続けていきます。

「アヒル」のテーマは「平和」

「お母さん、遅くまでお邪魔しました。今日は夕クシで帰るから心配しないでね」と主人が迎えに来たとき、私がその母に告げると、気を付けなさい!あなたも美人でかわいいから、どこかに連れて行ってあげよう。」と母は、優しく微笑んでくれた。

松郷・石原 晃子

私が幸せを感じる時は、優れた短編ミステリーに出会ったときだ。もちろん、ミステリーは国内でも産産されてはいるが、水準が高く、しかも現代が舞台の短編ミステリーと比べると少ないのである。

そのような作品に出会えると、脳内麻薬が分泌されるだけでなく、新鮮な目で周囲の事物を見ることもできるのである。ミステリーに限らず、ベストセラーを讀み、納得されている人が多いが、自分の特別な好みを追求するだけ「味を、本選んでも味わった時代だと思ふ。」

東狭山ヶ丘・川勝 信幸

私が幸せを感じる時は、優れた短編ミステリーに出会ったときだ。もちろん、ミステリーは国内でも産産されてはいるが、水準が高く、しかも現代が舞台の短編ミステリーと比べると少ないのである。

そのような作品に出会えると、脳内麻薬が分泌されるだけでなく、新鮮な目で周囲の事物を見ることもできるのである。ミステリーに限らず、ベストセラーを讀み、納得されている人が多いが、自分の特別な好みを追求するだけ「味を、本選んでも味わった時代だと思ふ。」

「わたしの本選び」

今、重い病気を患いながらも、とても幸せな気分になっています。

緑町・星野 道子

今までは家事を手伝うことがなく、「仕事」の主人が、家事の全部をこなして、家事もすべて、私は、自分の身だしなみも満足にできず、主人の手を借りていました。

一緒に暮らすのは、夕食の支度の補助で、野菜を切ったり、味付けなどのアドバンスをしたりするだけです。3年前には考えられなかったこと…。

男性でも、やる気になればできるものです。私は、「不幸中の幸せ」と感謝し、「ありがとう、ありがとう」の気持ちで毎日を送っています。

上新井・瀬戸 榮

昨年6月、以前から時々感じていた胸部の不快感が日増しに強くなり、医師から検査入院を勧められたのを機に、仕方なく入院して入院。まだ、そのときは、大げさな病気にやいと信じ込んでいたのです。

病院でカテーテルなどの精密検査を受けた後、待っていたのは、「不安定狭心症」による心臓のバイパス手術が必要」との宣告。まさに、青天の霹靂でした。

手術の成功率は99%で、全身麻酔も99%の人が大丈夫との説明がありましたが、自分は残りの1%に入ってしまったのではないかと不安で落ち込んだものです。しかし、手術は成功し、術後の経過も順調でした。今、こうして原稿を書きながら、元気にされたことを幸せに思っている。元気にされたことを幸せに思っているのは、やはり運動の散歩です。

今まで気がなかつた四季折々の自然の美しさ、優しさ、そして空気のおいしさに、生きていることの限りない喜びと幸せを、心から感じる毎日です。

映画「戦場のピアニスト」をみる機会がありました。外国の出来事ですが、歴史的に世界中の人々が忘れてはいけない、伝えなければならぬ事実です。小学生だった私も、当時を知る1人として忘れてはなりません。当時を忘れず、伝え、歴史を正しく知っておくことが大切です。過ぎ去りし日、私たちの今のために平和を築かれた人々がいたことを忘れてはならないと思ひます。

山口・柳下 清子

不幸中の幸せ

「このままじゃ、800円だったのよ。どうせ似合う」と言われた。いい色ね。あなたは何を着ても似合う!美人でかわいいもの!とほめてくれます。母だからこそ言ってもらえる言葉です。母からの「幸せ」の言葉の贈り物に、いい言葉をしてほほえみます。そう言えは、母と姉と私とよく新宿へ出かけたとき、亡き父はこんな口で母を送り出してくれたそうです。「美人2人と連れ立って、今日は幸せな日だね!」と。親づれらしいなあと思います。母は84歳になりました。

並木・竹田 亮一郎

若いうちは、己の不幸を親のせいや他人のせいにしてきた。少年期から青年期にかけての私は、不幸な顔をさらしていた。幸せを自分から求めようと思わなかった。宿命だとして観ていた。

「このままじゃ、800円だったのよ。どうせ似合う」と言われた。いい色ね。あなたは何を着ても似合う!美人でかわいいもの!とほめてくれます。母だからこそ言ってもらえる言葉です。母からの「幸せ」の言葉の贈り物に、いい言葉をしてほほえみます。そう言えは、母と姉と私とよく新宿へ出かけたとき、亡き父はこんな口で母を送り出してくれたそうです。「美人2人と連れ立って、今日は幸せな日だね!」と。親づれらしいなあと思います。母は84歳になりました。

誰でもエッセイ

テーマ 幸せ

